



日本共産党・前都議会議員

# そねはじめレポート

2012年 9月 19日発行 第 56 号

そねはじめ事務所

114-0032

北区中十条2-11-6

Tel: 3907-1135

Fax: 3906-3225

## 北社会保険病院 委託法人が国から買収を決断！

9月18日、北社保病院を訪問した左からそねはじめ

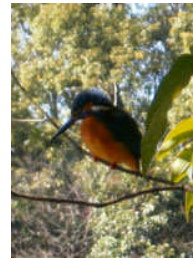
前都議、さがらとし子区議、のの山けん区議



◆吉新理事長が区を訪問  
本レポート53号でお伝えしたように8月に厚労省から、社会保険病院などを地元大学や委託先医療法人に優先的に売却できる通達が出されました。現在国から委託された唯一の病院・東京北社会保険病院の動向が注目されていきましたが、9月13日に、同病院を運営している地域医療振興協会の吉新（よしあら）理事長などが北区役所に山田副区長

# 区議会での緊急報告に、共産党区議団が強く要望 区は、地域医療最大の拠点守る区民の願いつらめけ

を訪ね、病院の譲渡を希望する意向を伝えました。



◆区は区民要望を上げよ  
9月18日の区議会健康福祉委員会では、北区から国の通達と協会の買収の意向が報告され、質疑が行われました。

永井とも子区議が「病院の移譲に区の意見を付し、運営体制と医療水準を守る官民挙げた長年の努力を生かせ」「63床増やし救急や周産期医療を拡充する増築計画は行われるのか」と質すと「増築実施や医療充実要望を伝え、区の見解をだしていい」と答えました。

### そねはじめ前都議・党区議団が病院訪ね 北社保病院・地域医療振興協会と懇談

9月18日午後、そね前都議と共産党のさがら・のの山・山崎区議は北社会保険病院の平澤事務部長・地域医療振興協会の黒川シニアアドバイザーと懇談し、病院移譲への経過や増築計画への影響、今後の展望について意見交換しました。

### ★国の政策変更により回されぬため決断★

両氏から、昨年「地域医療機能推進機構」法の成立以降も川崎社保病院が競争入札で売却後に混乱したこと、新機構に移行しても公務員給与削減や医師不足のあおりを受けるリスクが大きく、へき地派遣や小児救急のため他より多く医師を抱える北社保病院の先進的努力が困難になる恐れがあり、大幅増床工事を中断して譲渡を受け、直営とする決断をしたとの説明がありました。

そね前都議と区議団からは、無医村や離島を支援する同病院の役割を評価するとともに、区民が安心してかけられるよう増床工事も再開し、病院のいっそうの充実を要望しました。

◆国の地域医療撤退政策にふりまわされた歴史  
福島宏紀区議も「区議になり26年、国の地域医療撤退政策とたたかいた歴史だった」とし、国立病院以来、公的病院を守りぬいた住民と議会・区民の努力を生かすよう求めました。

◆無言の会派に疑問も  
この問題では共産党以外全く質疑がなく、つめかけた傍聴者からは疑問の声がでました。

また買収の申し入れを受け、早々と「了とする」区の姿勢に疑問を呈し、

「協会の買収で終りではない。今後何が起きて、不採算部門の小児や母子医療、救急や災害医療で、北区最大拠点としての医療水準を守り抜くという区民の悲願を実現させるため、区は粘り強く力をつくすべき」と述べました。

# 印刷局東京病院の譲渡に当たっての北区の意見を発表

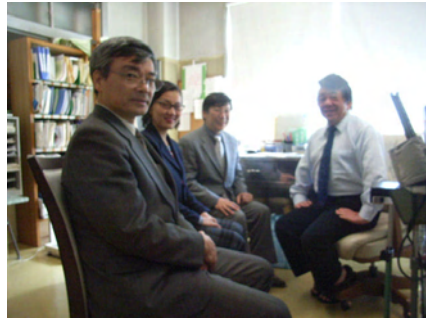
## 現行の診療科守り、夜間救急充実を

北区西ヶ原の印刷局東京病院は、今年1月20日の閣議決定で他の医療機関に移譲することが決定されました。

### ■「病院元気にする会」が要望

かねてから同病院の医療を守れと運動してきた「印刷局病院を元気にする会」は9月6日、医療機能を守り救急医療充実のために意見を

本年4月、野本医師会長を訪ね北社保病院と印刷局病院について連携・協力を話合うそね・池内両予定候補と、本田区議。



出すよう区長要請を行いました。

今回、北区の要望として①現行の7診療科を継続、②患者には影響を及ぼさない、③日中夜間の救急搬送受け入れ充実、④医師確保、⑤看護師確保、⑥区民検診実施、⑦災害時の患者受入れ、⑧災害対応の備蓄、⑨北区医師会・医療機関との連携、⑩病児保育の実施検討が盛り込まれました。

### ■医療守る区の支援が必要

地元の本田正則区議は、北区の意見は当然としつつも、受け入れる医療機関が、滝野川地域で唯一の救急告示病院の役割を拡充できるような区の支援と働きかけが不可欠であり、広い敷地の固定資産税への配慮など、北社保病院と同じように地域医療の拠点としていくため、全力で取り組むよう求めています。

## 10・1 医療情報キットとホイッスルの配布開始

9月20日の北区ニュースと一緒に「救急医療情報キット・防災用ホイッスルを配布します」というカラーのチラシが各戸に配られました。

### ■75歳以上全員・65歳以上の独り暮らしのかた・障害者に

10月1日から5日間は、区役所ロビー、赤羽会館、滝野川会館で、本人でも代理のかたでも無料でもらえます。その後は各地域の高齢者安心センターで配布します。北区は、該当者のほぼすべてに配れるよう26000セットを用意しましたので、ぜひ積極的に活用してください。



## そねはじめきり絵の世界 <NO.4>

### 被災地で復興のエネルギーをもらった能登の旅



北陸で2度目の巨大地震が起きた翌年、08年暮れの能登・輪島を旅しました。被災地が限定されていたせいも、まだ1年でも家いえはたくましく再建されつつあり、阪神大震災時に全く保障されなかった個人住宅への再建資金が国と自治体合計で1千万円ぐらい支給されたと聞いて、なるほど時代は動いたと感じました。

日曜の輪島の朝市は、早くから女性たちが沿道に次々と海産物や漆器を並べて元気な声を上げていました。

後ろの昔風の店の造りも、よく見ると真っさらの白壁で、見事に再建されていました。暮らしは厳しいとこぼしていましたが、復興へのエネルギーはしっかりもらって帰りました。